

『デカポメ人狼彼氏』

※実際の収録内容とは異なる部分がある場合がございます

【登場人物】
◆ぼめのすけ

三十五歳。185 cm 90 kg。

オレンジセーブル系の髪色。青い目。

人狼族の男性。半年前、夏の暑さに耐えきれず倒れていたところをヒロインに助けもらった。以来、ヒロインの『飼い犬』に。

助けてもらった恩義をどう返そうか悩んでいた頃、酔ったヒロインがふと口にした「彼氏欲しい〜！ぼめのすけが人間だったらよかったのにな」という冗談交じりの呟きを真に受けて「よっしゃそれなら俺がつがいになってやる」と一念発起する。

可愛いポメラニアン（10 kgくらいあるデカポメ）に擬態をしていたが、人型になるとポメ姿とは正反対のコワモテマッチョになる。コワモテだけれど意外と純情。健気で一途で可愛い、わんこ系男子。

実はちゃんと本名があるが、ヒロインに付けてもらったダサい名前を結構気に入っている。ヒロインのことは「お嬢」と呼ぶ。

終始天真爛漫、ヒロイン好き好き大好き！

◆ヒロイン

お一人様の会社員。

行き倒れていた野良ポメを哀れに思い、保護して自宅へ迎え入れたら大変なことになった。

ストーカーや痴漢に狙われることがよくある。よくありすぎて少々感覚がマヒしている。

人があまり好きではない。

◆モブ女性

ぼめのすけをナンパする女性。

実は人外。ほかの頭空っぽそうな人外種を見ると「重大な事件を起こして共存関係にヒビを入れるくらいなら、一発私を殴って早々に収監される」という思いで時々意地悪をする。

●トラック1 人狼（ポメラニアン）

1 目覚めたヒロインの隣には見知らぬマツチヨがいた。
2 自らをヒロインのペット・ぼめのすけと名乗る男を変質者と認識し、懸
3 命に追い出そうとするヒロイン。
4 命に追い出そうとするヒロイン。
5 しかし男はヒロインの目の前でポメラニアンに変身してみせ、自らを人
6 狼だと説明する。

7 場所…マンションの一室

8 時間帯…早朝

9 SE: アラーム（四、五秒程度）

10 SE: ベッドの上でもぞもぞ

11 【ポメ、ヒロインを腕枕する形で隣に寝ている】

12 【3】

13 ぼめ「ふわーああ。おはよう、よく眠れたか？

14 昨日は少し無理させすぎたからな……

15 どこか痛いところ、ないか？

16 ほら、おはようのキス【ヒロインの頬に軽くキス】」

17 【ヒロイン悲鳴を上げて飛びのく】

18 SE: ベッド大きく軋む

19 SE: 布団を跳ねのける

20 【6】

21 ぼめ「【驚き】うわ……っ！

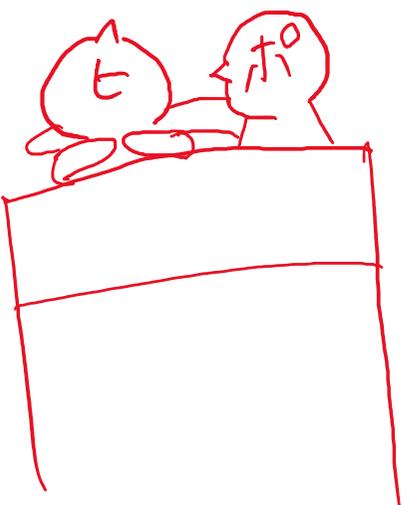
22 な、なにになににどうした急に！？

23 なんて叫んでんの！？

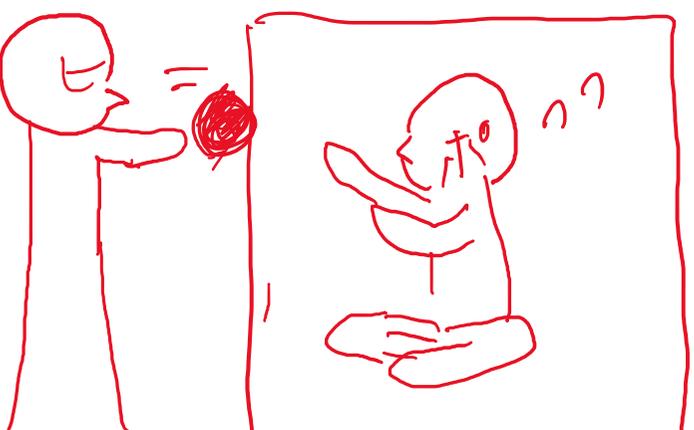
24 ムシむもいたーっ！」

25 【ヒロイン、ベッドから降りてポメに手当たり次第に物を投げる】

26 SE: 手当たり次第に物を投げる音



2



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

1 【9】
2 ぼめ「ちよ、やめ……！」
3 ころ、物を投げるな！
4 っつか落ち着け、お嬢——いてっ！
5 わ、わ、うわー！」

6 【ぼめのすけ、ベッドから転げ落ちる】

7 SE:ベッドから落ちる音

8 【9 下から】

9 ぼめ「い……てえ……！」

10 SE:足音

11 【ヒロイン「あなた誰？」】

12 ぼめ「は？ 誰って……昨日全部説明しただろ！？」
13 俺だよ、俺。
14 ぼめのすけ。アンタの飼い犬のポメラニアン！」

15 【ヒロイン「通報します」】

16 ぼめ「【焦り】通報！？」
17 ちよっと待て、まさか昨日のこと、何も覚えてないのか！？
18 俺にキスしたことも、
19 ふたりで熱い夜を過ごしたことも？」

20 ぼめ「【悲しげ】そんな……」
21 いくら酔ってたからって、
22 忘れるなんてあんまりだ。
23 俺、お嬢が喜んでくれると思って、
24 すぐー勇気出して人間の姿見せたのに……！」

25 【ヒロイン、ドン引きする】

26 ぼめ「おい、なんだよその顔。
27 見知らぬ異常者の妄想じゃねえよマジなんだって！」



1
2 【なお疑いの目を向けるヒロインに、思い出してもらおうのは不可能だと
3 悟るぼめのすけ】
4

5 【9 下から】
6 ぼめ「あー……いや、よしわかった。やり直そう。
7 もう一回証拠見せる。

8 見せるから、ちよつとそこで見てろ。
9 いくぞ……——ふんっ」
10

11 SE：衣擦れ

12 SE：変身音（ボン！みたいなやつ）
13

14
15 ぼめ「【中型犬の鳴き声】ワンワン！
16 どうだ？

17 この変身を見ても、まだ俺の妄想だって思うか？」
18

19 【ヒロイン「何かのどつきり？」】
20

21 ぼめ「【呆れ】……昨日と同じ事言うんだな。
22 どつきりでも手品でもない。

23 本物の人狼だよ。
24

25 映画とかゲームなんかによく出てくるアレだ」
26

27 【ヒロイン「狼じゃなくてポメでは】】
28

29 ぼめ「いや、ポメラニアンに化けてるだけで、
30 本当は狼なんだって！

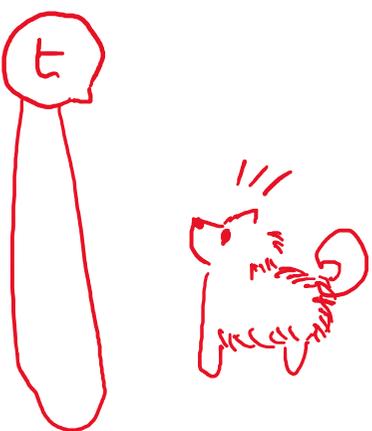
31 だってしょうがないだろ？
32

33 人間の町を狼がうろろしてたら大騒ぎになるし、
34 今だって狼になったらお嬢が怖がる」
35

36 ポメ「それに、満月が近づくと狼の血が騒いで、
37 人間の姿にはうまく化けられないんだよ。

38 だからほかの犬……つまりポメラニアンに
39 化けてるのが一番都合よかったわけ。
40

ほら、人間ってカワイイ犬すきだろ？
ポメラニアンとかマルチーズとかチワワとか」



1 【9 下から】

2
3 ポメ「ただ……日本の夏にポメラニアンは、
4 ちょーつと暑すぎてさ……
5 かといって変身解くわけにもいかないし、
6 公園で動けなくなつてたところを、
7 半年前にお嬢が助けてくれたってわけ」

8
9 ポメ「俺はほら、ポメラニアンっていつても、デカイくて重いだろ？
10 なのにお嬢は必死に俺を抱えてさ、
11 病院に連れてってくれて、俺を飼うって決めて、
12 そのためにペット可の物件まで見つけてきてさ。
13 どうすればその恩を返せるか、この半年間ずっと考えてたんだ」

14
15 ぼめ「それでお嬢、昨日言つてたよな？
16 “そろそろ彼氏ほしい。ぼめのすけが人間だったら
17 よかったのに” って……」

18
19 【なんとなく思い出したヒロインに歩み寄るぼめ】

20
21 SE:小型犬の足音

22
23 【6→1】

24 ぼめ「思い出してくれたか？ よかった。
25 【ところけるように】俺、嬉しかった。
26 お嬢の側にいられるなら、一生犬のままでもいいと思つてた。
27 けど……」

28
29 【ぼけのすけ、人間に化けてヒロインを抱きしめる】

30
31 SE:変身音 (ボン！みたいなやつ)

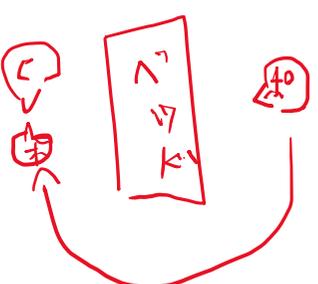
32 SE:抱き寄せる衣擦れ

33
34 【3 ヒロイン抱き寄せ耳元で】
35 ぼめ「恋人になれるなら、そのほうがずっといい」

36
37 【ヒロイン「ちょっとこっちに来て」と、ポメに背を向けて歩き出す】

38
39 SE:衣擦れ

40



1 【1→13】

2 ポメ「え？ 何だ、急に。

3 つ、ついて行けばいいのか？」

4 【ヒロイン、ぽめのすけを玄関に誘導する】

5 SE:玄関に向かう足音×2

6 【1c】

7 ぽめ「外行くのか？

8 ああ、もしかして散歩？ 確かに今日はまだだけど……

9 ていうか、俺は犬じゃなくて人狼だから、

10 別に決まった時間に散歩に行かなくても大丈夫だし」

11 SE:玄関ドア開く

12 【2→6】

13 ぽめ「え？ 外出るの？ このまま？

14 でも俺、今は人間の姿で、

15 しかも全裸なんだけ【ヒロインに突き飛ばされる】うわー！

16 SE:突き飛ばす衣擦れ

17 SE:玄関締まる

18 SE:鍵ガチャリ

19 【(っ)から扉越しの声に加工してください】

20 【6 ドア越し】

21 ぽめ「ちよっと、お嬢!?

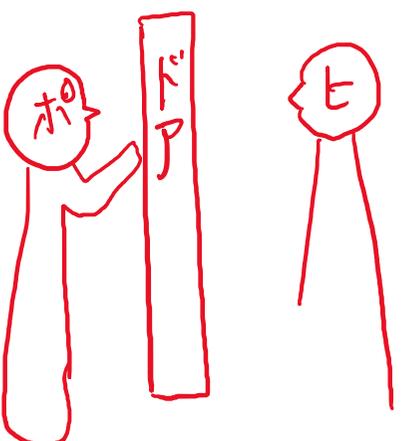
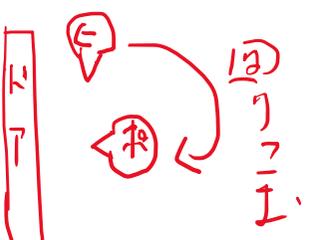
22 嘘だろ今絶対そんな流れじゃなかったよな!?

23 俺との出会いでお嬢が感動して、

24 俺の事受け入れてくれるって、

25 そういう流れだったよな!？」

26 SE:扉叩く音



1 【9 ドア越し】

2 ぼめ「お嬢！ お嬢ー！」

3 なんてだよ！

4 俺の事好きって言ったじゃないか！

5 俺以外要らないっていったじゃないか！

6 あんなに愛しあったじゃないか！

7 俺が人狼だからか？ 俺がお嬢を食うと思ってるのか!？」

8

9 【ヒロイン「ボメは飼えてもヒモは飼えない」】

10

11 【9 ドア越し】

12 ぼめ「……は？ ヒモ!?! 飼う!？」

13 ご、誤解だ！

14 お嬢に養ってもらおうなんて思っていないから！

15 っっていうか逆に、俺を恋人にしたら

16 お嬢にとっついていいことづくしだぞ！」

17

18 ぼめ「家事はなんでもやるし、

19 押し売りとか変な勧誘も全部追い払うし……！」

20 そうだ！ よく変なやつに付きまとわれるって

21 言ってただろ!？」

22 俺みたいなデカいのがそばにいたら、

23 そういう悪い虫も寄り付かなくなるぞ！

24 実は貯金も結構あるし、世界各地に別荘持ってるし!？」

25

26 【扉越しの声(こもも)】

27

28 SE:鍵ガチャ

29 SE:扉小きく開く

30

31 【6】

32 ぼめ「お、お嬢！ 考え直してくれたのか？」

33

34 【ヒロイン「もう一押し」】

35

36 ぼめ「も、もう一押し?？」

37

ええと、じゃあ……

38 ええと……お、俺がいなくなったら、

39 思いきりモフモフできなくなるぞ！」

40

SE: 扉完全に開く

【6】

ぼめ「あ、これで開けてくれるんだ。
人間としてのスペックより犬としてのモフモフかあ……」

【ヒロイン「入らないの？」】

【9→11】

ぼめ「入る入る！ 入ります！」

SE: 扉閉まる

【6】

ぼめ「いやー、ありがとな。お嬢！

ここ、開けてくれたってことは、

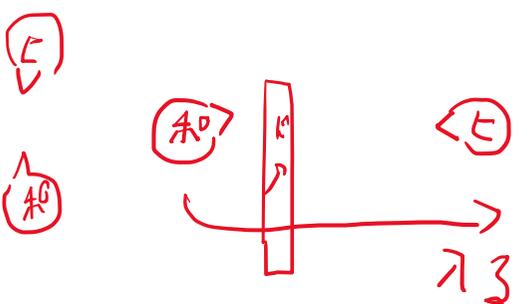
俺たち今日から恋人同士ってことでもいいんだよな」

【ヒロイン「まあ、まずはお試しからね」】

ぼめ「お試し？ 大丈夫大丈夫、いくらでも試してくれよ。

俺、絶対後悔させないから！

あらためて、今日からよろしくな。お嬢」



●トラック2 しつけの時間

仕事を終えたヒロインを、雨が降ってきたので、最寄り駅にぼめのすけが迎えに来る。ふたりで仲良く帰路につく途中、ヒロインのストーカーに遭遇。ぼめのすけが撃退しに行く。

場所…町の中

時間帯…夕方

SE: 電車の通過音

SE: 雨音(しとこと)

【10】
ぼめ「あつ、お嬢！ 仕事お疲れ！」

SE: 近づいてくる小走り足音

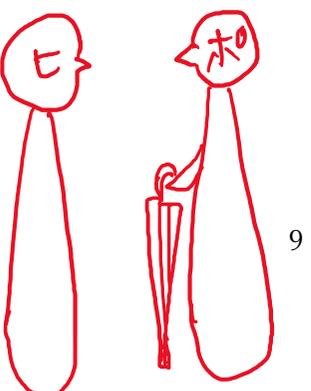
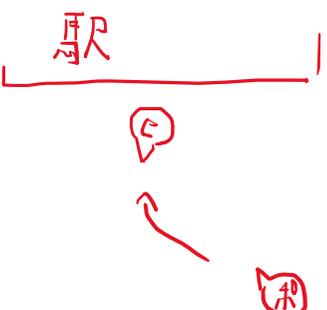
【1】
ポメ「お嬢、今朝傘持ってたかなかったよなと思って、
迎えに来たんだ。
よかった、見つけられて。
雨で鼻が利きにくくてさ」

【ヒロイン「別によかったのに」】
ぼめ「よくない！
濡れてお嬢が風邪でも引いたら大変だ。
それに、半年も完全に犬として過ごしてたから、
ちよっと人間として出歩きたかったし。
どう？ この服、似合ってるだろ？
あ、鞆持つよ。重いだろ」

SE: 雷遠くでトロトロ

ぼめ「お、鳴り出した」

SE: 傘開へ



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

1 【1】
2 ぽめ「ほら、傘入って。雨、強くなる前に帰ろう」
3

4 【ヒロイン「なんで1本なの？」】

5
6 ポメ「え？ だってお嬢の家には傘一本しかなかったし……
7 一本なら、二人でぎゅってしながら帰れるから、
8 恋人っぽくていいなーって」
9

10 【1→3】

11 ポメ「ほら、こっちきて。くっついて」

12 SE: 衣擦れ

13 SE: 足音

14
15
16 【ヒロイン「あなたほとんど傘に入れてない」】
17

18 ポメ「え？ 俺？」

19 ああ、あはは！ 確かにビショビショだ。
20 傘、思ったよりちっちゃかったな。
21 でも大丈夫。俺は頑丈だし、
22 お嬢とくっついて暖かいから」
23

24 SE: 雨音徐々に強くなり始める

25
26 ぽめ「あー、やっぱり強くなってきたな。
27 傘持って迎えにきて正解。だろう？
28 な、褒めてくれよ。ぽめのすけい子だねーって。
29 そしたら尻尾振って喜ぶから——ん？」
30

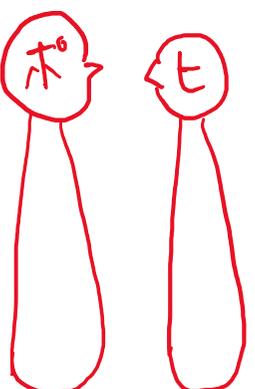
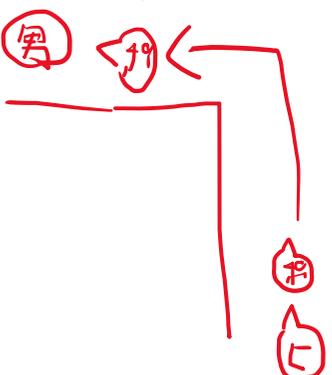
31 ぽめ「なあ、あのさ……
32 そのカーブミラーに映ってる男、
33 さっきからずっと尾けてきてるんだけど……
34 一応確認するけど、友達とかではねえよな？」
35

36 【ヒロイン、ミラーに映る男確認して青ざめる】

37
38 ぽめ「違うな。よし。
39 ごめん、ちよっと傘と鞆持ってる」
40



1 SE: 衣擦れ
 2 SE: 遠ざかる足音
 3
 4 SE: 重めの打撃音
 5 SE: 地面に倒れる音
 6
 7 【ボメ、恐怖を与える目的でことさら恐ろしげにしやべる】
 8
 9 【9 ヒロインに背を向けて】
 10 ほめ「一回だけ警告してやる。」
 11 次にてめえが彼女の視界に入ったら殺す。
 12 彼女がてめえの名前や写真を見ても殺す。
 13 俺が本気かどうか試したいなら今すぐ殺す。
 14 で、どうする?」
 15
 16 SE: 慌てて立ち上がる
 17 SE: 走り去る足音
 18
 19 ほめ「【遠くに】二度とお嬢に近づくなよー!」
 20
 21 【ほめ、ヒロインに振り向き、走り寄る】
 22
 23 SE: 走ってくる足音
 24
 25 【1】
 26 ほめ「【明るく】お待たせ! 片付けてきた!」
 27
 28 【ヒロイン「殺すって言ったた?」】
 29
 30 ほめ「ん? ああ、脅し脅し。
 31 本当に殺すはずないだろ?
 32 犯罪者になったらお嬢のそばにいられないし。
 33 本気でやるなら、ねぐら突き止めてから犬の姿で殺すって」
 34
 35 【ヒロイン「怖〜」】
 36
 37
 38 ほめ「あ、え? 怖い!」
 39 じよ、「冗談だよ、冗談」
 40



1 【ヒロイン、ポメに背を向けて歩き出す】

3 【5】

4 ポメ「あれ？ お嬢？

5 ちよ、ちよと歩くの早くない？」

7 SE:ヒロインの足音

8 SE:背後からの足音

10 ポメ「怒ってる？

11 もしかして殴るのもダメだった？

12 でも、お嬢の事守りたくて……

13 なあ、ごめんって。ごめんなさい！

14 次から気を付ける！

15 お嬢が殴っていいって言うまで我慢するから！

16 なあ、お嬢」

18 【ポメ、走ってヒロインの正面に回り込む】

20 【1】

21 ポメ「お嬢ってば！」

23 SE:足音ストップ

25 ポメ「【落ち込んで】

26 ごめん。引いたよな。

27 今まであんまり……その……

28 お嬢みたいなまともな人間と過ごしたことなくて。

29 悪いやつなら、殴っていいって思ってた……

30 お嬢もそれで喜んでくれるって思って……。

31 俺、ちゃんとするよ！

32 犬として過ごしてた時は、

33 吼えたり噛んだりしなかっただろ？

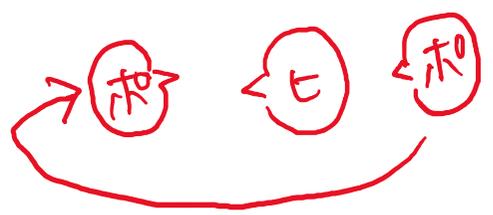
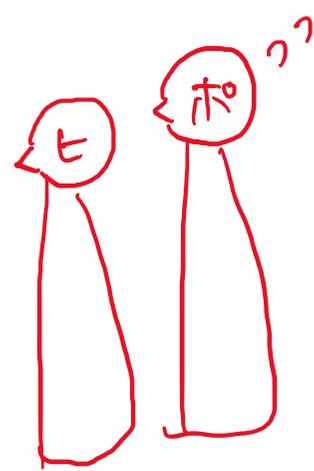
34 ほかにも嫌なところあったら、俺、がんばってなおすから。

35 だから……お嬢に躓けてほしいんだ」

37 ポメ「だめ……かな？

38 俺のこと、嫌いになったか？」

40 【ヒロイン「早く帰ろう」】



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

【1】

ポメ「え……？」

【嬉しそうに】い、いいのか？ 俺も一緒に帰って。

許してくれるんだな！ よかったあ！

お嬢って本当に、心が広くて優しく、

俺、世界で一番お嬢の事が大好きだ！」

【ポメ、再びヒロインの肩を抱く】

SE：肩を抱く衣擦れ

【3 前を見ながら】

ポメ「さ、早く帰って風呂であつたまろう！

お嬢を迎えに来る前に、風呂の準備してきたんだ。

帰ったらすぐ入れるからさ」

●トラック3 お風呂の時間

1 自宅へ戻ったふたり。雨に濡れたため、一緒にお風呂に入って温まるこ
2 とに。いちやラブトラック。

3 場所：アパートの玄関↓浴室

4 時間帯：夕方

5 SE：ドア開く

6 【9と16の間 正面を見ながら】

7 ぼめ「ただいまー！」

8 つはー、濡れた濡れた！」

9 SE：ドア閉じる

10 ぼめ「急に雨強くなってすげー焦った。

11 傘、全然役にたたねえんだもん。

12 【ヒロインを見て】お嬢も割と濡れちゃったし、
13 このまま風呂に直行な」

14 SE：靴を脱ぐ

15 SE：先を歩く足音

16 【ぼめ、風呂場に向かい、浴室の電気をつける】

17 SE：浴室のドア開く

18 SE：電気をつける

19 【ぼめ、濡れた服を脱ぎ始める】

20 【9 ヒロインに背を向けて】

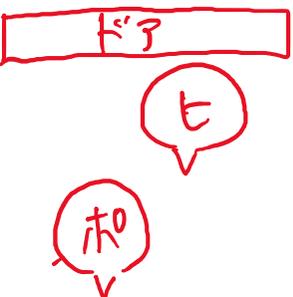
21 ぼめ「脱ぎながら」うえー、濡れた服って脱ぎにくくて嫌いだな。

22 犬の時は全裸だから楽だったのに……

23 【ヒロインを見て】ほら、お嬢も早くこっちききて。

24 濡れた服洗濯機に放り込んで回しちまおう」

25 【ヒロイン「なんであなたも脱いでるの？」】



【9】

ぼめ「え？ なんてって……何が？」

だって、服着たまま風呂入るわけにはいかねーし」

【ヒロイン「なんで一緒に入ろうとしてるの？」】

ポメ「え！？ 一緒に入っちゃダメなのか！？」

なんで！？ どうして！？」

今まで一緒に入ってたじゃねえか！

俺が泥水かぶって汚れた時も！

お嬢がひっくり返した小麦粉で汚れた時も！

なんならもふもふ度が落ちてきたって謎の理由で！

何度も何度も俺を洗ってくれただろ！？」

【ヒロイン「あれは犬だったからで……」】

ポメ「犬だったからあ！？」

なんだよ、犬になればいいのか？

いいよ、じゃあなるから。

そら、変身！」

SE:変身音

【9 下から】

ぼめ「わんわんわん！」

ほーら。これでいつものぼめのすけだ。

これで一緒に入っても問題ないよな？ なー？

わんわん♪ わんわんわんわん♪」

SE:ヒロインの足音

【ヒロイン、しゃべってるぼめのすけを抱き上げて脱衣所の外に放り出す】

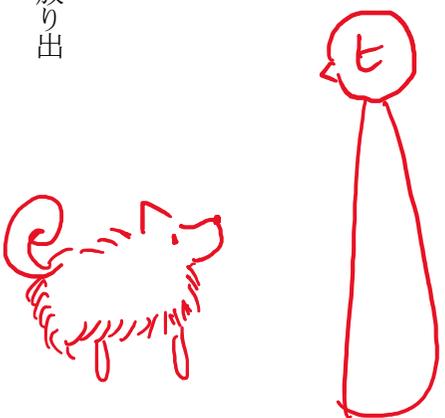
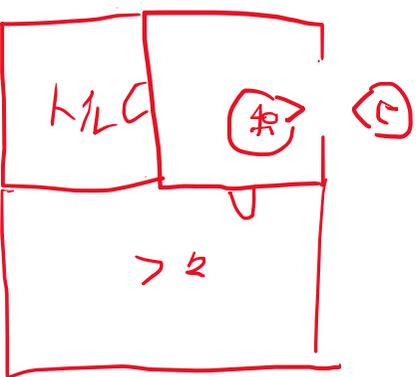
【1 下から】

ぼめ「お、やっとその気になってくれたか。

さあ、早く一緒に温まろ【持ち上げられる】——ん？」

SE:犬を放りだす

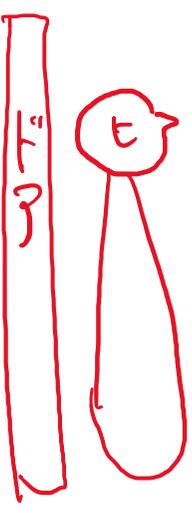
SE:ドア閉める



1 【こ】からドア越しのセリフに加工してください】

2
3
4 【13 下から】

5 ぼめ「え？ あれ？



6 これ、もしかして俺、また閉め出されてるやつ？

7 なんで!?! 犬ならいいって言ったじゃねえか!

8 開けてくれよお嬢!

9 あー、濡れて寒い！ 寒いなあ！

10 風邪ひいちまうかも！

11 いいのお嬢!?!

12 風呂であったまらないと、飼い犬が風邪ひくんだぞ!

13 【ヒロイン「頑丈なんですよ?」と言いながら服を脱ぐ】

14
15 SE:脱衣の衣擦れ

16
17 ぼめ「が……頑丈じゃない!

18 あの時は強がってああ言ったけど、

19 実はか弱くてひ弱なポメラニアンなんだ。

20 知らないのか? ポメラニアンは寂しいと死ぬんだぞ!

21 頼むよお嬢。入れてくれよ。

22 お願いします。おねがぁい!

23
24 SE:犬がキューンと鳴く声

25
26 【ヒロイン、罪悪感に負けてドアを開ける】

27
28 SE:脱衣所の扉開く

29
30 【ドア越しにこまで】

31
32 【1 下から】

33 ぼめ「お、お嬢!

34 冷たいふりしても、やっぱりお嬢は優しいなあ。

35 くく……じゃあ遠慮なく!」

36
37 【ポメ、脱衣所に侵入。ヒロインも諦めて一緒に浴室へ】

38
39 SE:犬の足音

40 SE:ヒロインの足音

1 SE:浴室開閉

2
3 【ここから軽めに浴室の反響入れてください】

4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

【ヒロイン「人間に戻ったら追い出す】

【1 下から】

ぼめ「えー?」

人間の姿の俺と風呂に入るの、そんなに嫌?
変なの。中身は同じなのに。

その気になったら犬の姿でも発情できるしさ。
見る? 犬の勃起」

【ヒロイン「追い出そうかな】

ぼめ「うそうそごめん! かわいいポメは発情なんかしません!

調子乗りましたごめんなさい!

さあ、ほら! いつもみたいに思い切りよく!

シャワーで俺を洗ってくれ!」

【ヒロイン、しゃがんでぼめを洗い始める】

SE:シャワーコックひねる

SE:シャワーの水出る

【1】

ぼめ「あゝ、湯加減最高。

冷えた体があったまる。

この、お湯が全身の毛に染み込んで、

しっとりしてく感じ……

めちやくちゃ体ぶるぶるってしたくなるんだよな」

【ヒロイン「今はやめて!」】

ぼめ「が、我慢する!

っていうか、風呂の時はいつも

お行儀良くしてるだろ。

俺、こっやってお嬢に洗ってもらうの大好きだからさ」

1 SE:シャワー止める

2 SE:シャンプーのポンプの音

3 SE:泡立ってる

4

5

6

7 ほめ「あ、これこれ。

8 こうやってシャンプーされんの、

9 すげー気持ちよくて大好き。

10 初めてお嬢と風呂入ったとき、

11 俺すげー緊張してたんだけど、

12 洗われてるうちに気持ちよくて寝ちゃってさ。

13 シャワーかけられて、驚いて目を覚ましたら、

14 お嬢がニコニコ笑いながら「気持ちよかったねえ」って

15 言ってくれて……

16 その時、あ、俺この人のこと好きだなって

17 思ったん【シャワーを頭からかけられる】ぶわ!?

18 ちょ！ お湯！ あばばばばば

19 SE:シャワーコックひねる

20 SE:シャワーの水出る

21 SE:シャワーコック止める

22

23 ほめ「ひでーよお嬢！

24 今俺ちよつといい話……ん？

25 あれ？ お嬢、ちよつと顔赤くない？

26 もしかして……照れた？

27 うわ！ かわいい！

28 もっとその顔見せて！ よく見せて！

29 なあなあなあなあ！

30 SE:変身音

31 ほめ「あ、ごめん。

32 興奮しすぎて人型になっちゃった」

33

34 【ヒロイン、慌てて飛びのく】

35

36 SE:がらがらがつしやん

37

38

39

40



1 【1→3】
2 ほめ「ちよ、あぶねえ！」
3

4 【ほめ、転びそうになるヒロインを抱きとめる】
5

6 【3】
7 ほめ「ひえー、あせったあ。」

8 【ヒロインを見て】大丈夫か？
9 どこか怪我してないか？」
10

11 【ヒロイン、顔真っ赤】
12

13 【1】

14 ほめ「【笑って】うーわ。顔まっかつか。
15 そういえば、なんだっけ？

16 俺って、お嬢の理想通りの顔と体なんだっけ？」
17

18 【7 耳元】

19 ほめ「お嬢は覚えてないだろうけど、
20 あの夜、人間になった俺を見て、
21 お嬢がそう言ったんだ。
22 顔も体も、ずっと見てられるって。
23 どう？」

24 どうせ人間に戻っちまったし、
25 また俺の体で遊んでみる？」
26

27 【ヒロイン「遊ばない」】
28

29 ほめ「やめとく？ そっか。
30 あ、じゃあこれは？」

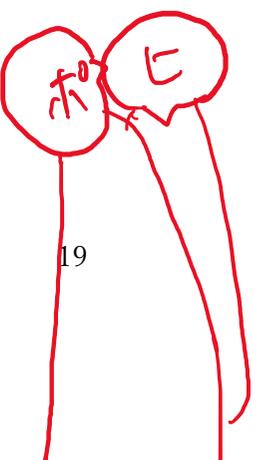
31 俺、マッサージとかすげー得意だけど、
32 髪洗いながらヘッドマッサージ。
33 いつも俺をきれいにしてくれるお札に、さ
34

35 【ヒロイン、うなづく】
36

37 ほめ「よし、決まり！
38

39 じゃあ、ほら。転ばないように椅子に座って」
40

SE:風呂椅子に座る



1
2
3 ぼめ「まずは髪、洗っていくから。痛かったりしたら
4 遠慮せずに言ってくれな」

5
6 SE:シャワーコックひねる

7 SE:シャワーの水出る

8
9 ぼめ「お湯加減大丈夫ですか？」

10 髪全体を濡らしたら、
11 シャンプーしていきますね」

12
13 SE:シャワー止める

14 SE:シャンプー出す

15 SE:髪わしゃわしゃ

16
17 ぼめ「はい、わしゃわしゃわしゃ〜。

18 結構こつてるから、ちよつと強めにマッサージするから」

19
20 ぼめ「きもちいい？ よかった。

21 俺さ、ちよつと不思議だったんだ。

22 面倒くさいだろうに、なんでお嬢はいつも俺の事

23 洗ってくれるのかなって。

24 嫌がるどころか、積極的にか。

25 でも、大事な人が俺の手で気持ちよさそうにしてるのを見ると、

26 俺も嬉しくなるんだなって、今わかった。

27 お嬢と一緒にいると、新発見だらけだ。

28 胸の中があつたかくなることいっぱい知れて、

29 幸せな気分になる。あ、シャンプー流すから目えとじて」

30
31 SE:シャワーコックひねる

32 SE:シャワーお湯出る

33 SE:シャンプー洗い流す

34 SE:次の指示までお湯出しっぱなしでお願いします

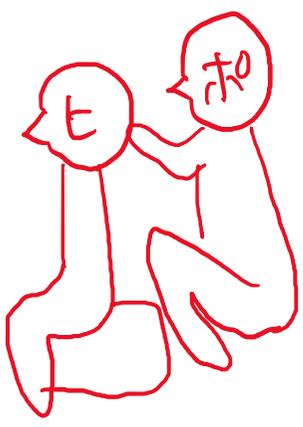
35
36 【5】

37 ぼめ「ねえ、目え閉じたまま、顔だけ上げて。

38 もつと首そらして。上むこて。

39 【1】そう。そのまま」

40



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

【ぼめ、ヒロインの唇にキスする】

【1】

ぼめ「……怒らないんだな。」

じゃあ、もつと深くキスしちゃお」

【デープキス三十秒程度】

ぼめ「あーこれ……ダメだな。」

もうキスだけじゃとまんねえや。

んー……でも、ちよつと寒くなってきたな」

SE:シャワー止める

ぼめ「おいで。一緒に湯船にはいる」

【ボメ、ヒロインを抱き上げて一緒に湯船に】

SE:湯船にザブン

SE:以後適度にチャプチャプ音入れてください

【ぼめ、湯船でヒロインをバックハグする】

【4】

ぼめ「あー、あったかい。気持ちいいな、お嬢。」

んー？ 体、こわばってるじゃねえか。

緊張してるのか？

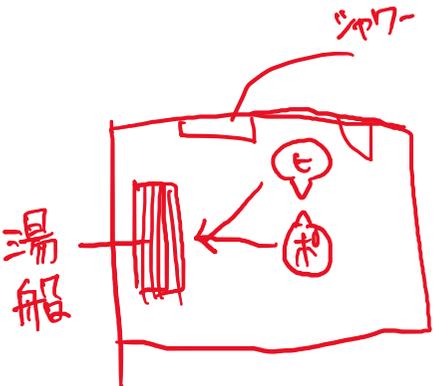
ほら、大丈夫だから。」

俺の胸にだらーって体あずけて」

ぼめ「お嬢の体、やーわらかくて、抱き心地最高。」

それに、【首元で息吸い込む】いい匂いだ。

すげーいいにおい」



1
2
3 ぼめ「違うよ、石鹸とかのおいじゃない。
4 お嬢のおいだ。
5 な、首にキスマーク、付けていい？
6 お嬢の恋人は俺なんだぞって、マーキングしたい」
7

8 【ヒロイン「見えるところはだめ」】
9

10 SE:お湯が跳ねる
11

12 ぼめ「嫌がってもだーめ！
13 つけるから。ん……ちゅ【キスマークつけるリップ音】」
14

15 ぼめ「ああ、きれいについた。俺の恋人ってあかし。
16 それから、今度指輪も買いに行こう。
17 婚約指輪。必要だろ？」
18

19 【ヒロイン「気が早すぎる」】
20

21 ぼめ「なんで？ 早すぎることなんてない。
22 【不安そうに】それとも、お嬢は俺の事捨てる気にいるのか？」
23

24 【ヒロイン「違うけど」】
25

26 ぼめ「違うなら、いいだろ？
27 結婚指輪はもっとじっくり選ぶからさ、
28 お嬢と婚約したって証拠が早く欲しいんだ。
29 な、恋人になるって、そういうことだよな。
30 恋人になって、別れなければ、結婚する。
31 そうだよな？
32 俺、ちゃんと人間としての戸籍もあるんだよ。
33 人間と結婚してる人狼だっていっぱいいるんだ。
34 それに——」
35

36 【3 耳元で】
37

38 ぼめ「ちゃんと子供だって作れる」
39
40

【3】

ぼめ「なあ、気づいてるだろ？」

さつきからお嬢の尻に、俺のが当たってるの。

お嬢がもぞもぞ動きたびに、こすれてき

早く中にぶち込みたくてゾクゾクしてる。

お嬢もその気になってきただろ？

ほーら、触ってもないのに、

乳首が物欲しそうに固くなってる」

ぼめ「俺、知ってるよ。

お嬢が乳首いじるの、だーいすきだってこと。

お嬢が一人でしてるとこ、何度もそばで見たからさ。

ずっと、俺ならもつと気持ちよくしてやれるのになって思ってた。

ほら、今は俺が乳首可愛がってあげるから、

クリは自分で……な？」

ぼめ「できない？ やだ？

でも、乳首だけじゃイけないだろ？

もつと強い刺激が欲しくて、腰揺れちまってる」

SE: 大きめにお湯跳ねる

【ヒロイン、ぼめの手から逃れようと身をよじる】

ぼめ「おっと……！ 逃がさねえよ。だめ、だーめ。

いい子にして。ほら大人しく。

ステイ、ステイ。

んー？ 怒ってる？

怒っててもカワイイ。【耳にキス】」

【ヒロイン、軽く達する】

SE: 大きめにお湯跳ねる

ぼめ「あれ？ え？ 今いった？

あれれえ〜？ 耳にキスされてイっちゃうんだ。

へえ〜それは知らなかったな」

【3 耳元で】

ぼめ「なあ、もっとイくとこ、見せて。」

お嬢が気持ちよくなっていると、「いっぱい見たい」

ぼめ「いじわるはもうやめて、」

俺がぜーんぶやってあげる。

クリ、指でよしよしされるの好きだもんな。

よしよし……よしよし……。

ふふ、可愛い声。くんくん鳴いて、子犬みたいだ。

ほーら、よしよし、よしよし……。もっと強いほうがいい？

こーやって指で押しつぶして……。

くりくり、ぐりぐりって。擦って、なで回して」

【ヒロイン、軽く達する】

SE: 大きめにお湯跳ねる

ぼめ「あーあ、またいった。」

ああ、お嬢……可愛い。本当に可愛い。

可愛い、可愛い、可愛い……。

好きだ、好き、好き……好き。

はあ、はあ……【耳舐め】ん、ちゅ……」

【耳舐め二十秒程度】

ぼめ「【耳舐めながら】えっろい声。」

ぬるぬるしたのが溢れて、指に絡みついてくる」

【耳舐め二分まで】

ぼめ「なあ、俺、もうお嬢の中に入りたい。」

そのまま立ち上がれるか？」

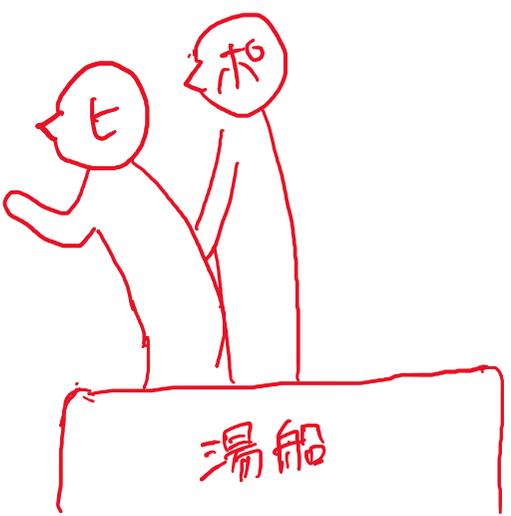
SE: 湯船から立ち上がる

【5】

ぼめ「壁に手、ついて。」

俺の方に尻、突き出して。

そう、ああ、すげーいい感じ。めちゃくちゃそそる」



1 【7 耳元で】
2 ポメ「いれるぞ。力抜いて。
3 ん、く……!」
4

5 SE:奥まで挿入する水音
6

7 ほめ「ん……すんなり入った。
8 大丈夫か？ 痛くない？
9 お嬢の中、熱くて狭くて、
10 切なそうに疼いてる。中もよしよししてやるからな。
11 お嬢の弱いところ……。へソの裏側の、
12 このぎゅらぎゅらしてるところ、
13 よしよし……良い子良い子……」
14

15 SE:出し入れする水音
16

16 SE:バックのパンパン音
17

17 SE:お湯跳ねる
18

19 ほめ「すっげえ締め付けてくる。ぎゅらぎゅらで、
20 食いちぎられそう。
21 お嬢の中ひくひくして、
22 美味そうに俺のしゃぶってる。
23 もっと味わって、ほら。
24 ガン突きしながらクリも触ってやるから」
25

26 【吐息のみ30秒ほどください】
27

28 ほめ「気持ちいい？ そっかそっか。
29 自分で乳首触って、腰揺らしてるくらいだもんな。
30 素直なお嬢、最高に可愛い」
31

32 【吐息のみ30秒ほどください】
33

34 ほめ「ん？ もうイク？
35 俺もイきそう。一緒にイこう。な？
36 ほら、乳首もっとなぐつねって……。
37 ほら、ほら……!」
38

39 【終わりに向かう吐息のみ1分程度ください】
40

1
2
3 ぼめ「あ、ああ……イく、イきそ……
4 出るっ……！」
5

6 SE: お湯大きく跳ねる

7
8 ぼめ「はぁ……はぁ……。
9 あ〜。お嬢のイキ顔、えろくてかーわいい。
10 上手にイけたな。よしよし……疲れただろ？
11 そろそろ上がろうな。
12 ほら、入れたままこっち向いて」
13

14 SE: 体位変える水音

15
16 【1】
17 ぼめ「これでよし。
18 このまま抱えてベッドまで連れてってやるから」
19

20 【ヒロイン「なんで入れたまま？」】

21
22 ぼめ「ん？ なんてって……
23 あー、これも覚えてないか。
24 ほら、俺、狼だからさ。
25 セックスの時抜けないように勃起っぱなしので
26 ぎちぎちにふたして、
27 メスとつながったまま何度も射精するんだ」
28

29 ぼめ「だから、俺のが落ち着くまでピッタリくっついたまま、
30 強制的にずーっと一緒。
31 明日は仕事も休みだし、ベッドで朝まで仲良くしような。
32 おーじよう♪【唇にキス】」
33
34
35
36
37
38
39

●トラック4 ごほんの時間

ヒロインのために朝食の準備をするぼめのすけ。
ふたりに食事を取りながら、ぼめのすけの故郷の話を知ったりする、ほのぼののトラックです。

【ヒロインが寝室で眠っていると、ドアを一枚隔てたダイニングキッチンから、ポメの鼻歌が聞こえてくる】

【10 ヒロインに背を向けて】

ぼめ「【鼻歌】ふんふーん……ふふーん♪」

SE:ヒロインの足音

SE:引き戸開く

【ポメ、キッチンに向かって食事の支度をしている】

SE:お皿カチャカチャ

SE:スープがここと

【9 ヒロインに振り向いて】

ぼめ「あつ、おはようお嬢。

ぐっすり眠れたみたいだな。

【鍋に向き直り】今、ちよどどできたところなんだ。

座って待ってて。一緒に食べよう」

【ヒロイン、テーブルに移動して椅子に腰掛ける】

SE:ヒロインの足音

SE:椅子に座る

SE:コンロの火を止める

SE:スープすくったりおかず取り分けたり

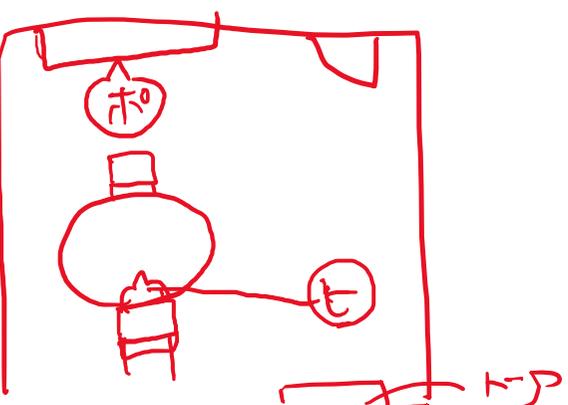
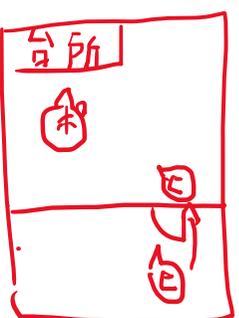
【9 ヒロインに背を向けて】

ぼめ「本当は昨日の晩飯にする予定で仕込んでいたんだけど、

【少し照れて】昨日はほら、な？」

【ヒロインを見て】だから豪華なランチってわけ」

【ポメ、トレーに乗せた料理を食卓へ運ぶ】



1 SE:近づいてくる足音
2 SE:皿を並べる

3
4 【6と19の間】
5 ぼめ「じゃーん。シェフ・ぼめのすけの特製手料理！
6 ちよつと、張り切って作りすぎたけど……」
7

8 【ボメ料理を並べおえ、ヒロインの正面に座る】

9
10 SE:椅子引いて腰掛ける

11
12 【6】
13 ボメ「俺の故郷の料理なんだ。
14 気に入ってもらえると嬉しいな。
15 それじゃ、はい、あーんして」
16

17 SE:フォークで料理取る

18
19 【ヒロイン「あーん」】

20
21 ぼめ「お、素直じゃん。
22 どう？ 美味しい？
23 味付け、濃かったり、薄かったりしないか？」
24

25 【ヒロイン「美味しい」】

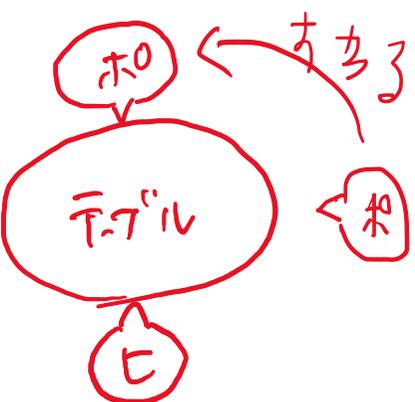
26
27 ぼめ「よかった！ まだまだたくさんあるから、
28 腹いっぱい食ってくれよな！」
29

30 【ヒロイン「料理上手だね」】

31
32 ぼめ「お嬢に上手って言ってもらえて、嬉しいな。
33 俺、昔から懂れてたんだ。

34 自分の作った料理を好きな人に食べてもらうの。
35 ほら、狼の雄って、とってきた獲物を
36 つがいにプレゼントするだろ？

37 それと一緒に、人狼族の男にとっても
38 手料理を振る舞うってのは求愛行動の一種だよ。
39 俺の故郷では、男たちはガキの頃から
40 『未来の奥さんのために』って、父親から料理を習うんだ



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

【ヒロイン「故郷ってどんなところなの？」】

【9】

ぼめ「俺の故郷？ そうだな……。海が綺麗なところだよ。
オリーブと魚がたくさんとれて
ワインと蜂蜜が美味くて……」

【ヒロイン「食べ物ばかり」】

ポメ「た、食べ物だけじゃないから！

エメラルドグリーンの海に、白い砂浜。

よく晴れた日には、子供たちが波打ち際に追いかけてっことか、
貝殻拾ってネックレス作ったり。

男も女も陽気なタイプが多いから、
しょっちゅう皆が集まってパーティーみたいなことしてる。
とにかく、のどかでいいところだ」

【ヒロイン「行ってみたいな」】

ぼめ「えっ、ほんとに？ ほんとに行きたい？

俺の故郷に、俺と一緒に？

もちろん、お嬢なら大歓迎だ！

父さんも母さんも、俺が奥さん連れてきたら
きつと驚くだろうなあ。

子供の予定は？ なんて聞かれて、そういうのは
二人で相談して決めるんだよとか言っちゃって」

【ヒロイン「まだお試しで付き合ってるだけけど」】

ポメ「うん？ わかってるわかってる。

まだお試し期間中だもんな。

でもいずれはさ。

いずれと言わずにすぐにでもさ。

な？ ほら、な？ な？

あ、ほら。冷める前に食って食って！

デザートも用意してあるからさ。

俺も食べる。いただきますーす！」

SE:食器カチャカチャ

1
2
3 【9】
4 ぼめ「あーむ……んぐ……んぐ。
5 うん。美味い！ 味見の時より美味い。
6 お嬢と一緒に食ってるからかな」

7 【ヒロイン「そうかもね」】

8
9 ぼめ「やっぱ。お嬢もそう思う？
10 二人で一緒に何かやるって、最高だよな！
11 そ、それでさ……だからってわけじゃないんだけど……
12 食べ終わったら、ちよっと二人で出かけてみないか？」

13
14 【ヒロイン「お出かけ」】

15
16 ぼめ「お出かけて言うか……
17 その……で、デートってやつ……！
18 せつかくのお試し期間だし、
19 ちよっとでも恋人っぽいことしたくてさ。
20 あっ、嫌だったら全然、断ってくれていいから！
21 疲れるからゆっくりしてたいとか、
22 まだそんな段階じゃないとかだったら、
23 俺はちゃんと待てるから。
24 お嬢がその気になるまで、ちゃんと！」

25
26 【ヒロイン「嫌じゃない」】

27
28 ぼめ「え？ ホントに？ほんとにほんとに嫌じゃない？
29 【安堵】よかったあ……！
30 俺、デートコース一生懸命考えたんだ！
31 お嬢に喜んでもらえて、俺も楽しいプラン！
32 新しいカフェとか、おしゃれなショップとか、
33 それに、お嬢の大好きな水族館とか！
34 じゃあ、早く食って支度しなきゃ！
35 いっぱい思い出作って、とびきり楽しい一日にしような」
36
37
38
39

●トラック5 さんぽの時間

ぼめのすけと水族館でデートをするようになったヒロイン。逆ナンでヒロイン以外の女に触れられたことに怒りと嫌悪感を覚えたボメは暴力性を垣間見せるが、ヒロインの介入により事なきを得る。

時間 昼

場所 水族館

SE：楽しい人々のざわめき

SE：足音

【水族館に入場し、二人で並んで歩く】

【3 隣を歩く距離で正面を見ながら】

ぼめ「【感動】おお……すごい。これが水族館……！」

【ヒロイン「行ったことないの？」】

【3 ヒロインのほう見て】

ぼめ「うん、実は初めて。

俺の故郷は小さな島で、

水族館なんてなかったし、一人でくるのもちよつとき。

【ヒロインを見て】だから今日、お嬢と来られてすっげー嬉しい！

あ、そうだ。

せっかくのデートだし……手、繋いでもいい？」

【ヒロイン頷く】

ぼめ「やった……！」

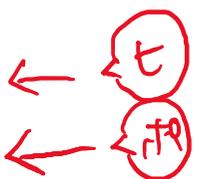
いやちよつと待って。手汗やつば」

SE：手をぬぐう

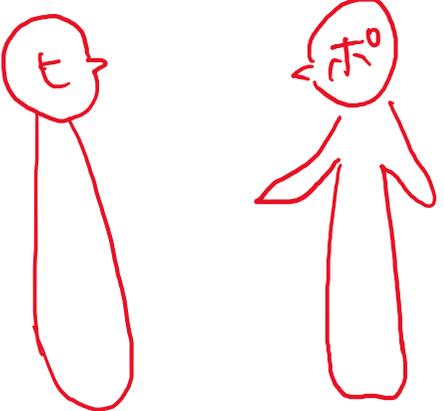
【9 一歩離れた距離】

ぼめ「じゃあ改めて……お手をどうぞ、お嬢様」

SE：手をつなぐ衣擦れ



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39



1 ぼめ「へへ。お嬢の手、あったかい。
2 じゃあ行こっか」

3
4 【9と16の間 背を向けて】
5 ポメ「あっ、見て見てお嬢！ 巨大水槽！
6 すげー！ マグロが泳いでる！」

7
8 【ポメ、ヒロインの手を引っ張って歩く】

9
10 SE：足音二人分

11
12 【3 前を見ながら】
13 ぼめ「俺、お嬢がくれるカリカリのなかでは
14 マグロ味が一番好きだったなあ。
15 ベジタブル味は最悪……」

16
17 【ヒロイン「残してたもんね」】

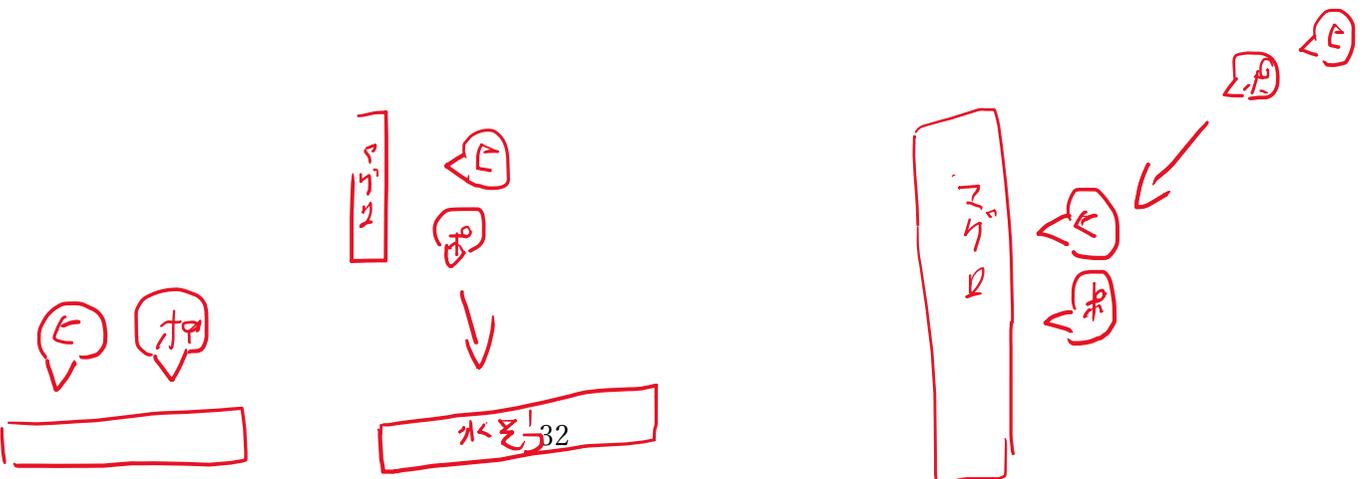
18
19 【3 ヒロインを見ながら】
20 ポメ「俺だって好きで残してたわけじゃねえって！
21 けど……お嬢も食ってみればわかるよ。
22 泣くかと思った。あのカリカリは。
23 【横を見ながら】お、あっちの水槽もでっかい！
24 ほら、こっちこっち」

25
26 SE：足音二人分

27
28 【3 キョロキョロしながら】
29 ぼめ「ほら、あの魚綺麗だな〜！
30 今日のお嬢の服に色がそっくり。
31 あっちは群れになって泳いでる！
32 それに……あれ、もしかしてマンボウ？
33 あはは、面白い顔！」

34
35 【ヒロイン「すげーはしゃいでる……」】

36
37
38
39
40



1 【9】
2 ぼめ「ん？ そりやはしゃぐよ。」
3 お嬢との初デートなんだから

4 これでもめちやくちや頑張って押させてるくらい
5 気を抜いたら狼になりそうだし、
6 ちぎれるくらい尻尾ふってる」

7 【ヒロイン「じゃあ、せっかくだから記念撮影しない？」】

8 【9】

9 ぼめ「記念撮影？ するする、したい！」

10 えーと、どこがいいかな……

11 【10を見ながら】

12 あ、あの水槽！ もしかしてクラゲじゃないか？」

13 SE：足音×2

14 【8】

15 ぼめ「【水槽見て】ライトアップされて綺麗だな。」

16 ふわふわ、ふわふわ……見てのんびりする感じ、

17 【ヒロインを見て】お嬢っぽくてかわいい」

18 【ヒロイン「今馬鹿にした？」】

19 【9】

20 ぼめ「ぼ、馬鹿になんてしてない！」

21 ここで写真撮ろう。

22 えっと……肩に腕、まわしていい？

23 ぼめ、ハッち着て」

24 SE：衣擦れ

25 【7 カメラ見ながら】

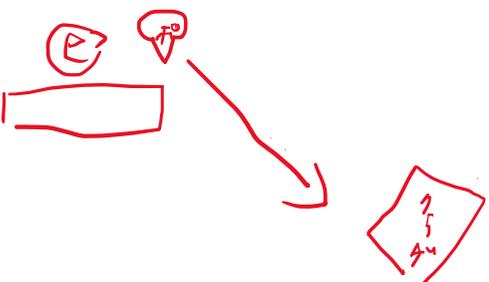
26 ぼめ「もつと俺のほうに顔寄せて。」

27 お、良い感じ。それじゃ……はい、笑って！」

28 SE：スマホのシャッター音

29 SE：衣擦れ

30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40



1 【1】
2 ぼめ「スマホ見ながら」うん、よく撮れてる。
3 ほら見て、お嬢。すっげえ可愛い。
4 スマホの待ち受けにしよつと」

【ヒロイン「私もする」】

【1】

10 ぼめ「え？ お嬢も待ち受けにしてくれるのか？
11 お、俺とのツーショットを？
12 そんなんマジの恋人じゃん！
13 はあく。待って、今ちよつと感極まって
14 泣きそう。あんまこっち見ないで……」

【ヒロイン「おおげさだよ」】

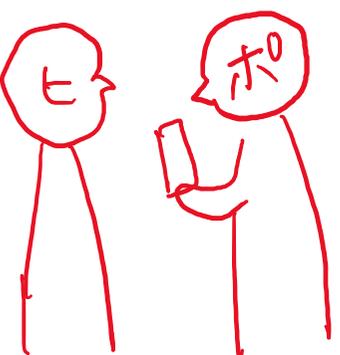
18 ぼめ「大げさなんかじゃない。
19 人間とは違うんだよ、俺たち人狼族の愛って。
20 一度愛したら、その人だけになるんだ。
21 いろんなことがあっても、
22 絶対につがいを裏切らないし、
23 命をかけて愛し抜く。
24 俺にとつてお嬢は、そういう存在なんだ」

【ヒロイン「私に振られたら？」】

28 ぼめ「え……？ も、もしふられたら？
29 そうだな……
30 ええと……かなしい。
31 いや、すげー悲しい。
32 ちよつと待って、想像したら落ち込んできた。
33 これ想像したらダメなタイプの想像かもしれない」

【ヒロイン「忘れて忘れて」】

37 ぼめ「わ、忘れる！ いったん忘れる！
38 大丈夫大丈夫、お嬢は俺を振らない。
39 俺とお嬢は相思相愛。
40 もう結婚することは決まってる」



1 【ヒロイン「決まってるはないけど……」】

2

3 ぼめ「そりゃ決まってるないけど！」

4 いったんそう思い込んでテンション上げたいの！

5 お嬢も協力してくれよ。

6 好きって言うってくれたら回復するから」

7

8 【ヒロイン「人前ではちょっと」】

9

10 【1】

11 ぼめ「えー？ なんで人前だと言えないんだよ。

12 俺は叫んでもいいね。

13 お嬢の事好きだ、愛してるって！」

14

15 【照れたヒロイン「飲み物買ってくる」といって立ち去る】

16

17 【1→13 離れながら】

18 ぼめ「え、ちょっとお嬢!？」

19 飲み物なんて、そんなの俺が買ってくるから！

20 おーい！」

21

22 SE:ヒロインが走り去る足音フェードアウト

23

24 間

25 SE:ヒロインが戻ってくる足音フェードイン

26 【女に声掛けられてるぼめのすけを見たヒロイン、足を止める】

27

28 女「【あざとく】あのお、すいませ〜ん。ちょっといいですか？」

29

30 【9 ヒロインに背を向けて】

31 ぼめ「え？ ああ俺？」

32

33 女「はい！ さっきからお兄さんのこと見てて、

34 顔もスタイルもすごく格好いいなって。

35 よかったら、ご一緒にお茶とかってどうですか？」

36

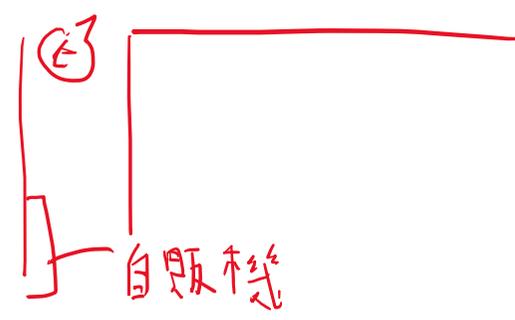
37 ぼめ「ああ……いや、連れがいるんで」

38

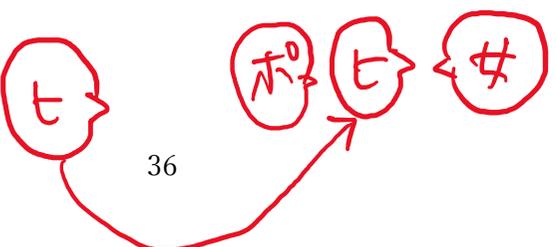
39

40

41



1 女「それって、さつき走ってた女の人ですよね？」
2 私、カフェでお茶飲んでるの見ましたよ？
3 疲れて休んでるのかも。
4 案内してあげますよ！
5 うわあ、お兄さん、手おつきい♡」
6
7 【女、ぼめのすけの手を握る】
8
9 【9 ヒロインに背を向けて】
10 ぼめ「ちょ、何勝手に手えにぎってただよ！」
11
12 SE:振り払う
13
14 女「え、手繋ぐくらい、いいじゃん」
15
16 ぼめ「【いらだって】いい加減にしろって」
17
18 【不穏な空気を感じたヒロイン、ぼめと女の間割って入る】
19
20 SE:早足の足音
21 SE:衣擦れ
22
23 【1】
24 女「きゃっ！ ちょっと何？」
25
26 【5】
27 ぼめ「お、お嬢……！」
28
29 【ヒロイン「わたしの恋人だから」】
30
31 女「恋人お？ ふーん。あっそ。
32 なーんだ。ちゃんと守ってくれる女がいるんだ。
33 つまんない。
34 世間知らずの人狼なら簡単に引つかかると思ったのに」
35
36 ぼめ「引つかかるわけないだろ、あんな雑なナンパに！」
37
38
39
40



1 女「そーじゃなくて。
2 すぐにイラっとして人を殴って、
3 檻に入れられちゃうってこと。
4 多いんだよ？
5 あんたみたいな単純馬鹿が起こす事件。
6 今だって、彼女がちよっと遅かったら
7 私の事突き飛ばしそうだったし」

【5】

ぼめ「あ……」

女「よかったじゃない。守ってもらえて。くそダサいけど」

ぼめ「なんだとてめえ！」

女「あ、あ、あー。ダメでちゅよわんちゃん。きゃんきゃんほえたら」

【1】

女「人間と仲良くしたいなら、ちゃんと自制しなさいよ。
できないなら、大事件起こす前に消えてよね。

迷惑だから。

お姉さんも、人狼と付き合うなら気をつけなさいよ。

【ヒロインに背を向けながら】簡単に殺されないように。
じゃあね」

SE: 去って行く足音 (ヒール)

【ヒロイン「今のは一体……」】

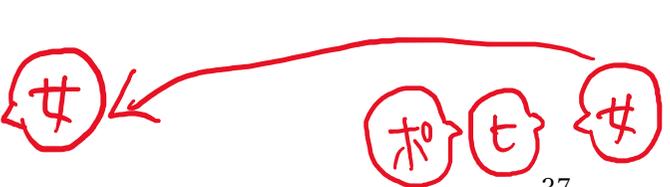
【5】

ぼめ「ごめんお嬢。

たぶん……今の俺の同類だと思っ」

【ヒロイン「人狼ってこと？」と言ってボメに振り向く】

40



1 【1】

2 ぼめ「人狼って言うか、人外……かな。

3 まあ、人じゃないけど、人に化けてる。

4 そういうの。

5 あ〜……！ くそ！

6 ムカつくけどあの女の言う通りだ！

7 俺、手をつかまれたときムカついて、

8 張り倒しそうだった。

9 お嬢に暴力はダメって言われてたのに、

10 ついカッとなって……」

12 【1】

13 ぼめ「あ、でも！ お嬢を叩いたり、殴ったり、

14 そういうことは絶対にしないから！

15 ほんとにほんとにしないから！

16 殺すなんて、絶対にありえないから……！」

18 ぼめ「【不安そうに】だから……

19 俺の事こわくなったりとか……してないよな？

20 あ、こーやって聞くのも怖いか。

21 ええと……どうしよう。俺、どうしたら……」

23 【ヒロイン「頭下げて」】

25 ぼめ「え？ 頭？ さ、さげればいいのか？

26 ここのくら〜……c。」

28 【ヒロイン、ボメの頭をぎゅっと抱きしめる】

30 SE：強めの衣擦れ

32 【7】

33 ぼめ「うわ！ な、なんだよ急に！

34 【少し嬉しそうに】お嬢ってば、

35 そんなに強く抱きしめられたら苦しいって。

36 さ、さっきは人前で好きて言うのも嫌がってたのに、

37 こんなふうを抱きしめるのはいいのか？」

39 【ヒロイン「不安そうな飼い犬のためなら何でもできる」】

40



1
2 ポメ「か、飼い犬のためって……!」

3
4 【ぼめ、ヒロインの腕から脱出する】

5
6 ぼめ「【少し拗ねて】そんな言い方ないだろ。
7 俺はちゃんと、男としてお嬢が好きで……
8 そりゃ、怖がられるよりはいいけど……」

9
10
11
12 【1】

13 ぼめ「抱き合うなら、犬みたいにヨシヨシされるより、
14 俺がお嬢を抱きしめたい。」

15 【3】「こっやって」

16
17 【ポメ、ヒロインを抱きしめ返す】

18
19 SE：衣擦れ

20
21 【3】

22 ぼめ「せっかくのデートだったのに、
23 全然うまくできなくて、ごめん。
24 でも、俺の事守るためでも、
25 恋人だって言ってくれて嬉しかった」

26
27 【3】

28 ぼめ「なあ、デート……どうする？
29 まだ俺と一緒にいてくれる？」

30
31 【ヒロイン「二人きりになりたい」】

32
33 ぼめ「うん。俺も同じ気持ち。
34 二人きりになって、愛してるって何度も叫んで
35 抱きしめてキスしたい。
36 はやく帰ろう。俺たちの家に」

37
38
39
40

●トラック6 交尾の時間

人間社会でのぼめのすけの危うさを自覚し、「ぼめには本当に自分が必要なんだな」という自覚が恋心に変じるヒロインと、そんなヒロインとの絆を確かめたがるぼめとの円満ラブラブいちやいちゃトラック。

時間 夕方

場所 アパートの一室

SE：玄関ドア閉める音

SE：靴脱ぎ捨てる

SE：衣擦れ

【玄関に入るなり互いの唇を食い合うふたり】

【1】

ぼめ「ん……っ、ちゅ、はあ……っ！

お嬢、お嬢……っ」

【デープキス20秒程度】

SE：服脱がす衣擦れ

SE：服破れてボタンはじけ飛ぶ

ぼめ「ごめん、ちよつと破れた。

なんか、すげえ焦って、

我慢できなくて——【唇塞がれる】んんっ」

【デープキス十秒程度】

【ヒロイン、自分から服を脱ぎ始める】

SE：服脱ぐ衣擦れ

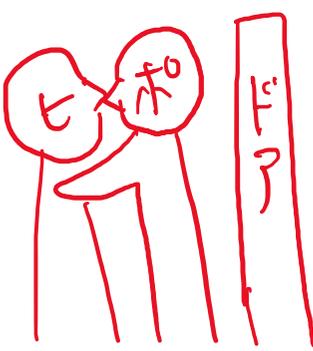
SE：床に服落とす

ぼめ「あーあ。自分から脱いじまうなんて、

お嬢も待ちきれない？ 俺と同じ気持ち？

じゃあ——【3 耳元で】このまま玄関で、するっ」

【ヒロイン、うなずく】



1
2
3 ぼめ「へへ……じゃあほら【ヒロインの足持ち上げる】足上げて。
4 俺の腕に足ひっかけると楽だから。
5 俺のベルトは、お嬢が緩めて」

6
7 SE:ベルト外す

8 SE:フアスナーおろす

9
10 【7】
11 ポメ「わかる？ 俺ももうガチガチ。
12 ちよっと下着ずらして押し付けたら、
13 もう入っちゃまいそう。
14 ほら、こうやってお嬢の入り口に、
15 俺の先っぽすりつけてさ」

16
17 SE:ねちねち触れ合う水音(未挿入)

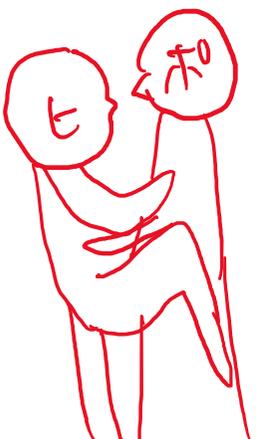
18
19 ぼめ「嬉しそうに囁く】聞こえる？ この音。
20 くちゅくちゅ、くちゅくちゅって。
21 お嬢の入り口俺のを食べたいって、
22 よだれダラダラ垂らして可愛い声でおねだりしてる。
23 ずっと感じてたよ。お嬢のメスの臭い。
24 水族館で抱き合ってた時からずっと」

25
26 【ヒロイン「はやくいれて」】

27
28 ぼめ「んー？ もう我慢できない？
29 俺ので腹パンパンになりたい？
30 でも、俺今ゴムしてないよ？ 孕んじやうかも」

31
32 【ヒロイン「いいよ」】

33
34 ぼめ「いいの？ 本当に？
35 じゃあ俺の事、お嬢の番って認めてくれたんだ。
36 ああ、嬉しいな。最高にうれしい。
37 今すぐめちやくちやに犯したいけど、
38 大事にしたいからさ。
39 ぬれぬれだけど全然ならしてないし、ゆっくりいれような。
40 ゆっくり、ゆっくり……んんっ【挿入】」



1 SE: ゆーつくり挿入音

2 SE: 衣擦れ

3

4 【7】

5 ぼめ「はあ、はあ……すげ、今までで一番奥まで入った。
6 根元までぐっぽり食べられちゃった。
7 こんなにきゆうきゆう締め付けて、
8 入れただけなのに、もうイッたのか？
9 はは、可愛い」

10
11 ぼめ「お嬢の中、今からガン突きしてやるから
12 もっともっと気持ちよくなろうな♡」

13
14 【吐息のみ二十秒程度下さい】

15
16 SE: 抜き差し水音

17 SE: パンパン音

18 SE: 衣擦れ

19
20 ぼめ「あゝ、すっごい。中、ぬるぬるで熱くて、
21 きつこうねって締め付けてくる。
22 気持ちよすぎてどうにかなりそう。
23 お嬢も気持ちいい？ もっと激しいの、欲しい？」

24
25 【ヒロイン頷く】

26
27 ぼめ「じゃ、お望み通り、もっと激しくしてやるよー！」

28
29 【吐息のみ一分程度下さい】

30
31 【7→1】

32 ぼめ「荒く喘ぎながら】うあ、ああ、お嬢……っ。
33 突くたびに可愛い声上げまくって、可愛い。
34 俺も、すっごい……！ ん、んん、ちゅっ……」

35
36 【キスハメ三十秒程度お願いいたします】

37
38 【1】

39 ぼめ「はあー……はあ……っ、よすぎる。もうイキそ……。
40 ん、んっ、うあ……ッ【フィニッシュ】」

SE: 射精音

【1】

ほめ「はぁ……はぁ……あーやば、腰砕けぞ。
でも、全然収まらねーや。

早くベッドでもっと深くて激しい交尾しなきゃ。

俺の首にしっかり手、回してて。

このままベッドに運ぶから。

よっど。

ふふ、お嬢は軽いな。軽くて、柔っこくて、

俺なんかとは大違いだ。可愛い……【額にキス】」

SE: 衣擦れ

SE: 足音

SE: 寝室のドア開く【引き戸を足で開く】

【ヒロインをそっとベッドに下ろし、圧しかかるほめのすけ】

ほめ「はい、とうちや〜く」

SE: ベッドのきしみ

ほめ「綺麗だ、お嬢……。全身キャンディみたいに舐め回して、
ぐずぐずに溶かしたい。

ここも【首筋にキス】、ここも【鎖骨にキス】、
全部俺のだってマーキングしたい」

【1 下から】

ほめ「このかわいなおっぱいも、

いっぱい舐めて可愛がつてやるから。

はーむ。ちゅっちゅ……」

【胸舐める音二十秒程度お願いします】

ほめ「んー？ どうしたの？ 物足りなさそうな顔して。

もう片っぱの乳首もいじめてほしい？

いいよ。じゃあ、舐めながら

指ですりすり、くにくくにしてあげる」



1 【舐め音二十秒程度お願いします】

2

3 【1 下から】

4 ぼめ「ふふ、お嬢の身体、素直で可愛い。

5 俺に舐められるたびに、びくびくって震えてる」

6

7 【3 耳元】

8 ぼめ「甘えるように」俺ももう一回出したい。

9 またガン突きしていい？

10 お嬢の奥、正常位でごっごっ抉って、

11 一番奥にびゅーって出したい」

12

13 SE:抜き差し水音

14 SE:パンパン音

15 SE:ベッドの軋み

16

17 【激しい息づかい一分ほどお願いします】

18

19 ぼめ「はっ、はあっ……ははっ。すごい声。

20 イクの、止まらない？

21 交尾みたいに奥ガン突きされて、

22 そんなに気持ちいいんだ？

23 もっともっと、お嬢の弱いとこ責めてあげる」

24

25 【激しい息づかい三十秒ほどお願いします】

26

27 ぼめ「ああ……最高に気持ちいい……！」

28 好きだ、お嬢。好き、好き」

29

30 【フィニッシュに向かう激しい息づかい三十秒ほどお願いします】

31

32 ぼめ「はあっ、ああ、イキそう、もう俺……っ。

33 愛してる、愛してる、愛してる愛してる……っ

34 ん、う、あああ……っ 【フィニッシュ】」

35

36 SE:射精音

37 SE:ベッドのきしみ

38 SE:衣擦れ

39

40

【3 耳元】

1 ぼめ「はあ、はあ……はあ……。」
2
3 あー、やばい、よすぎる。
4 ちゃんと番になった相手との本気セックスって
5 こんなにイイんだ。
6 なあ、もう一回いい？
7 ほら、足上げてぐるーって、うつぶせになって
8 俺の方に尻突き出して」

【入れたまま後背位に体位を変える】

SE：水音

SE：体位変える衣擦れ

【5】

16 ぼめ「んー、いい眺め。
17 まるくてかわいいお尻。
18 ほら、イイところに当たってるだろ？
19 これで動いたら、またいっぱいイけそうだろ？
20 ほら、ほおら」

【吐息のみ1分程度お願いします】

SE：出し入れする水音

SE：パンパン音

SE：ベッドの軋み

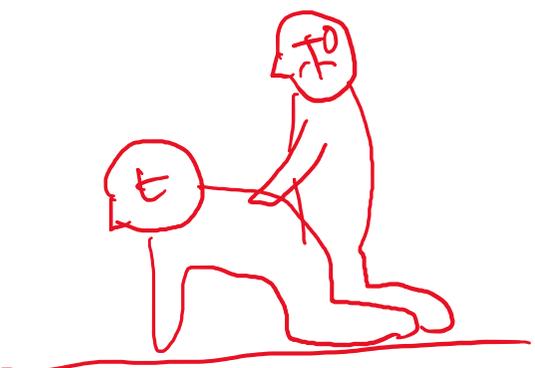
28 ホメ「ああ、いいよ、最高……きもちい……！
29 腰、止まらない……！」

【吐息のみ1分程度お願いします】

33 ぼめ「あ、あ、またイキそ……！
34 お嬢、中で全部飲み干して……っ。
35 っあ、ああ……！！【射精】」

【ヒロイン、ベッドにうつぶせに倒れ込む】

SE：倒れ込む軋み



1 【5と13の間】
2 ほめ「あれ？へばっちゃった？」
3

4 【ポメ、背中からヒロインにのしかかる】

5 SE:のしかかる軋み

6 SE:衣擦れ

7 【6 背後から】

8 ほめ「なーあ。お嬢。

9 俺、もーっちょよっとしたいなあ」

10 【ヒロイン「無理」】

11 ほめ「むり？本当に。

12 でもほら、お嬢の体はさ。

13 こうやって、奥の方、とん、とんするってすると……

14 ほーら、自分から腰振っちゃってる」

15 SE:出し入れする水音

16 SE:ゆっくり&軽めの肉を打つ音

17 ほめ「あーこの……ゆーっくりするのも、すげーいい。

18 動くたびに、お嬢の肉が俺に絡みついて、

19 抜いて、入れて、抜いて、入れて……」

20 【ゆっくり出し入れの吐息1分程度お願いします】

21 ポメ「あー……また精子上がってくる。

22 出したい。出したい。

23 動けないお嬢の体、ベッドにぎゅって押し付けて、

24 俺の形がわかるくらい、腹の奥、こりこりしたい」

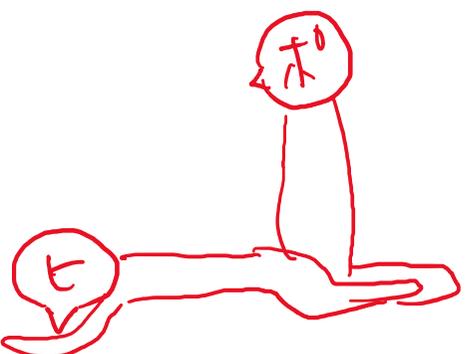
25 ほめ「あ、今……中締まった。

26 激しくされるの期待した？

27 ゆっくり動かれるのじゃ、

28 お嬢も物足りないよ——【ここから激しくする】な！」

29 【ガン突きの吐息1分程度お願いします】



1 SE:出し入れする水音

2 SE:パンパン音

3 SE:ベッドの軋み

4

5

6 ほめ「ああ、すげ……！」

7 ずっと締まって、食いちぎられそ……！」

8

9 【フィニッシュに向かう吐息1分程度お願いします】

10

11 ほめ「ああ、出る……！ 一番濃いの出そ……！」

12 あ、ああ……！【射精】」

13

14 ほめ「はあ……はあ……」

15 は………やっ……とちよつと収まつてきた。

16 ほらお嬢、こつちきて。

17 抱きしめさせて。後ろからぎゅって」

18

19 【ほめ、ヒロインを背後から抱きしめ、背面側位の体制になる】

20

21 SE:体位変える衣擦れ

22

23 【4】

24 ほめ「俺がポメラニアンだった頃は、

25 お嬢が毎晩こうやって俺を抱きしめて眠ってくれたんだよな。

26 あの時も幸せだったけど、今はもつともつと幸せだなあ」

27

28 ほめ「俺、お嬢とこれからもずっと、

29 ずっと、一緒にいたい。

30 こうして毎晩、お嬢を抱いて眠りたい。

31 いいかな。……お嬢？」

32

33 ほめ「もしかして眠っちゃった？」

34 あーあ、テンション上がって無理させ過ぎたか……

35 起きたらすげー叱られそう……

36 でも、いいや。

37 そばにいてくれるならなんでもいい。

38 ゆっくりおやすみ——俺の可愛い主人さま。

39 【うなじにキス】」

40